

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十九年九月度 入選句（投稿総数千七百二十六句・一般投句数五百三十三句）

特選

遠ざかる島に忘れし夏帽子 福井県敦賀市 山田 美千代

あーあーと思いながら遠ざかり行く島、思い出の夏が思い出の忘れ得ぬ島となるであろう時
が流れて行く。まあ、いいかと思いつつも泳ぎ戻ることも出来ぬじれつたさに胸が痛む。どんどん
遠く小さくなつて行く島へ思いを寄せるしかない切ない思い伝わります。

向日葵の群れ立つ騎士の如きかな 大垣市 福永 峰子

このごろ休耕田を利用しての広大な向日葵畑よく見受けま
す。何万本という向日葵の花、その大きな花の顔が全部同じ方向に向つて迫り来る迫力、その姿、
騎士が挙つて駆け上りくるかに見えたのです。
それは“群れ立つ騎士の”というフレーズで読む人にそのイメージを彷彿させるよさがありま
す。

今日も有る妻の笑顔や秋高し 大垣市 多和田 一徳

底抜けに明るい家庭の主人公の姿躍如というところでしょうか、この笑顔こそが家庭円満、幸
せの原点なのです。笑う門には福来たるのことばは嘘ではないのです。ふさぎ込んで家に帰つて
もこの笑顔、明るい仕草に心を癒されている幸せに感謝です。

秀逸

律儀にも炎暑の中にポスト立つ 岐阜市 富永 万里

指先に噴水乗せてポーズかな 大垣市 仁村 光生

大都会のみこむ力大火花 大垣市 鹿子嶋なでしこ

厄日くる鍵の袋は新しく 大垣市 秋山 くに子

筆談で花愛でながら母は逝き 大垣市 不破 英雄

盆踊り私も少し若くなる 大垣市 高田 志づ可

打ち水も楽し親子の夕涼み 三重県四日市市 藪内 礼子

蝉時雨法話のひざに子をのせて 揖斐郡揖斐川町 栗野 みねお

厨より庭に出る妻夜の秋 福岡県福岡市 大津 英世

新涼や縁側で読む朝刊紙 兵庫県神戸市 紫 桔 梗

入選

立秋の風の清しき大社
蟬時雨耳にのこれりむすびの地
夏休みたくさん遊んで昼寝かな
すすき刈り干して俵をあんだ日も
暮れてなを向日葵畑仄明かり
指の先足の先まで盆踊
よく匂ふ刈田真中の無人駅
腕角力捲くる日焼の力瘤
自転車のパンク押し行く残暑かな
老いてなどをれぬ余生や大根蒔く

養老郡養老町	田中	秀子
本巢市	近藤	信男
東京都大田区	塩谷	真理子
大垣市	永島	みすゑ
大垣市	仁村	光生
不破郡垂井町	児玉	信子
愛知県名古屋市	後藤	春子
不破郡垂井町	富田	実郎
京都府宇治市	椎原	園美
大垣市	村田	通夫

入選

朝夕の打水今日も暮れにけり
稲の花親より子へと守る棚田
かなかなや今日も事無くひとひすぎ
電車のドア開く度聞こゆ虫の声
親の恩気づく齢や涼新た
いわし雲一番ライトを夢見る子
打水に叩きだされし日の匂ひ
風呂を出て遊び足りない裸ん坊
蟬時雨止んで真昼の静寂かな
つかのまを大工ふたりの三尺寝

大垣市	鶴田	信子
大垣市	岡田	あや子
大垣市	久保田	悟義
大垣市	傍島	豊子
愛知県岡崎市	鈴木	正紘
兵庫県神崎郡	山崎	ぐずみ
不破郡垂井町	高木	巧み
栃木県那須塩原市	久保田	山蛾
兵庫県豊岡市	辻井	市郎
三重県津市	村山	好幹

選者吟

つくつくし少し鳴いては遠ざかる

青志